

# こども特派員が行く!!

このコーナーは、小・中学校の子どもたちが自分たちで編集・発行する「特派員」となり、有田市の良さを伝えてくれます。

今回のこども特派員は、飛龍神社（下の宮神社）の取材にいった田鶴小学校6年生の上野山 颯空さん、大門 凜さん、  
 栖井 杏さん、嶋田 帆純さん（左から）です。  
 ※紙面の文章及び掲載の写真はこども特派員によるものです。



**歴史**  
 古文書によると、飛龍神社は、約三三三十年前には、小豆嶋神社という名で呼ばれていたそうです。そして、二百年ほど前に、社殿が建て直されて、飛龍神社と呼ばれるようになりました。

**私たちのまちの飛龍神社**  
 宮崎町にある飛龍神社は、地域の人からは「下の宮」と呼ばれて親しまれています。立神祭では、野地区にある立神社を出発した子ども神輿の到着地にもなっています。飛龍神社について詳しく知るため、立神社専任総代の田中利益さんに、お話を伺うことにしました。

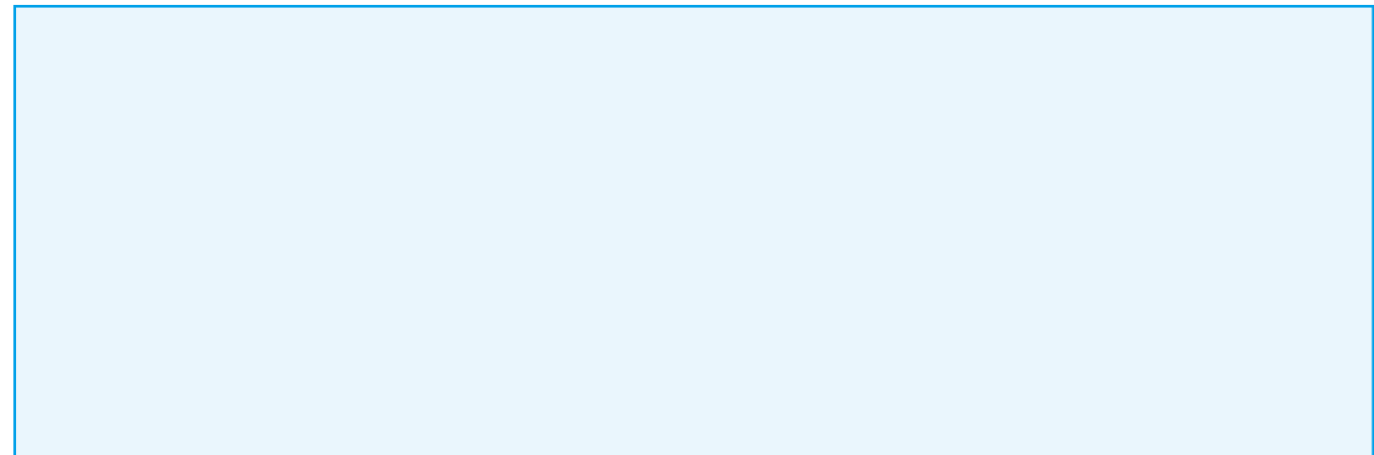


立神社専任総代 田中利益さん

**鯛投げ**  
 立神祭の際、飛龍神社では、獅子舞の奉納のあと、鯛投げが行われます。鯛は、餅投げでは、毎年、鯛が二百匹以上まかれていきます。これは、

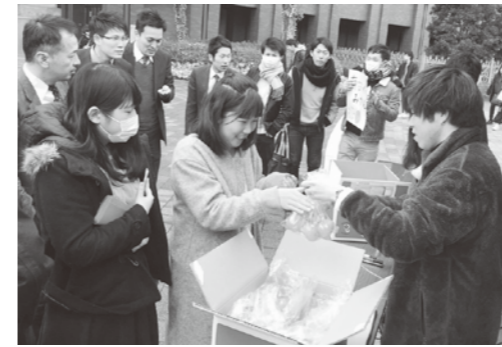
**【感想】**  
 下の宮と言って親しまれている飛龍神社について多くのことを知ることができました。また、飛龍神社の行事には、たくさんの方が関わり、協力してくれていることも改めて分かりました。これまでは、何気なく立神祭に参加していたけれど、調べてみて、もっと親しみを持つことができました。また、昔のことはよく知らなかったもので、田中さんのお話を聞くことで、自分の地域のことをもっと分かったのがうれしかったです。

広告



龍谷大学生 持ち込み企画

# 有田市 魅力発見プロジェクト No.10



**有田市と深尾ゼミナール**  
 私たちは1月19・20日に学校内でみかんを販売した。有田市の農家の方々が心を込めて作り、そして私たちゼミ生の想いが乗った「有田みかん」の販売だ。この一年間私たちゼミ生は、月に一度有田市を訪れ、色々な人と出会い、たくさん景色を目にし、有田市のことをどんどん好きになっていった。私たちは有田市の魅力を是非多くの人に知ってもらいたいと思いい、この企画を立てた。また、この企画は私たちが研究してきた「寄付付き商品」と有田

## 有田みかんプロジェクト

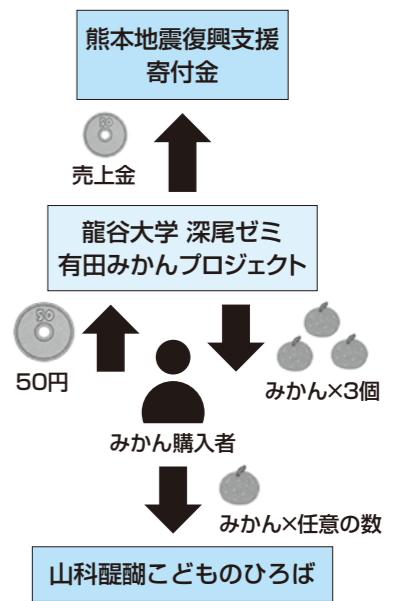


市を掛け合わせた特別なイベントである。

**たくさんの感謝**

この企画を一言で言うなら「ダブル寄付イベント」だ。みかんを三つで50円と破格の値段で挑んだ有田みかんの販売。売上の50円は昨年4月に起こった熊本地震の復興支援に寄付させていただく。そしてもう一つの寄付がある。それは有田みかんの寄付だ。「有田みかんを買ってもらうんじゃないの？」とみなさんは思っているだろう。今回のイベントで私たちが考えた仕掛けはここにある。買った人の意思で、購入したみかんのうちいくつかを子どもたちに寄付できる仕組みをつくった。寄付先は「特定非営利法人 山科醍醐こどもひろば」という子ども支援に力を入れている団体だ。この仕組みで学内の人に有田みかんの美味しさを知ってもらうだけではなく、京都に住む子どもたちにも知ってもらえることができると考えた。

【みかんプロジェクトの仕組み】



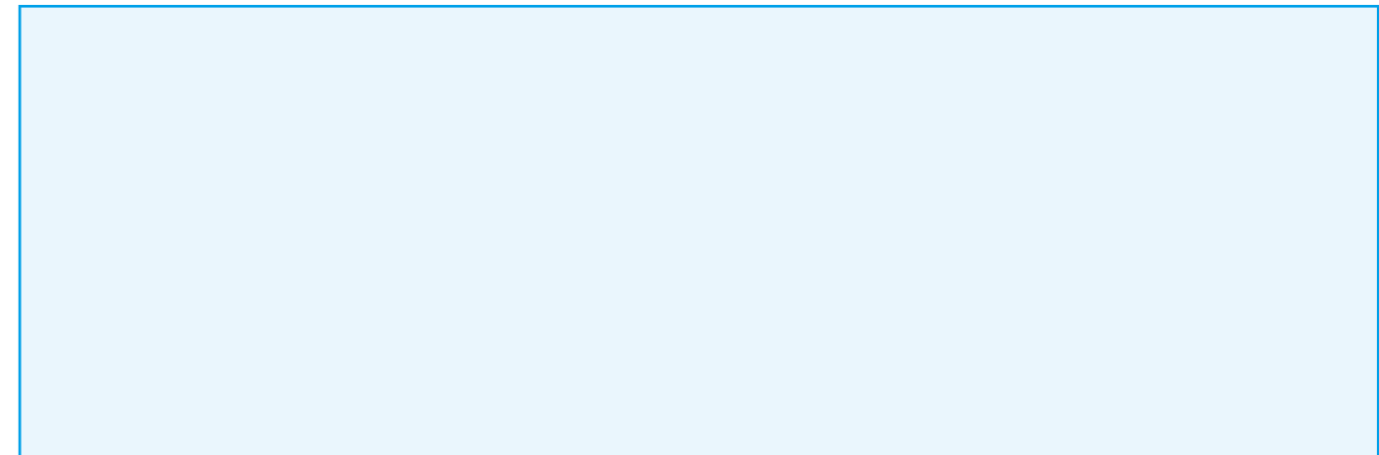
**有田みかんがくれた奇跡**  
 有田みかんをお昼休みから販売する予定だったのだが、開始する5分前には列ができてしまうほど多くの方が来てくださった。予想を上回る賑わいで一日目の販売分が30分程度で完売した。たくさんの方が「美味しい、美味しい」と言って食べてくれ、「いい活動しているね」と声をかけていただき、素直に嬉しかった。二日目も同様、30分程度ですべてのみかんが完売。また、ほとんどの方がみかんの寄付に協力してくださり、135個のみかんが寄付された。

寄付していただいた有田みかんはその日のうちに「山科醍醐こどものひろば」へ届けさせていただいた。農家の方々、大学、購入してくれたみなさん、「山科醍醐こどものひろば」さん、たくさんの方の協力がありこのイベントは大きく成功で幕を閉じることができた。

私たちの実現させたかった有田市の企画、寄付付き商品の販売、どちらも同時に進行することができ、夢が叶ったような二日間だった。あの二日間のお昼休み、龍谷大学にはたくさんの方の笑顔と優しさがあふれていた。

「有田みかんがくれた奇跡」と言えるだろう。

広告



餅投げの様子